

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02390

研究課題名（和文）中世・近世在地文書の様式・機能の変遷と中世文書群の構造的変容に関する研究

研究課題名（英文）Research on the Changes in the Style and Function of Rural Archives from Medieval to Early Modern Japan, and on the Changes in the Way Medieval Archives Are Organized.

研究代表者

坂田 聡 (SAKATA, Satoshi)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：20235154

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては丹波国山国荘地域をフィールドにとり、以下の2点を柱に据えて研究を進めた。第一に、これまで古文書学的な研究が十分とはいえなかった中世在地文書について、近世在地文書との比較・検討を行うことによって、様式や機能に関する両者の連続面と断絶面を踏まえた在地文書論の構築を試みた。第二に、中世在地文書がいかなる理由により、どのような紆余曲折の過程を経て今日的な文書群構成の中に位置づけられたかを考察した。その上で、第一の柱と第二の柱に関する研究成果を統合して本研究のメインテーマについて考察を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、古文書学的な史料研究が進んでいる中世史においても、在地レベルで作成された文書についてはあまり考察がなされていないが、在地文書も含めて、近世史においては古文書学的な史料研究がまったく行われていない中、中世在地文書と近世在地文書の様式・機能の異同について検討した本研究の学術的意義はきわめて大きい。

第二に、近世史・近代史で一般的な史料管理学的研究の手法を、中世在地文書研究にも援用することで、在地文書レベルでの「文書群構成の時間的変化」を中世から近現代にかけての長期的なスパンで解明した本研究は、その面でも大きな学術的意義を有している。

研究成果の概要（英文）：In this study, we took the Yamaguni-sho in Tambanokuni (present-day Ukyo-ku, Kyoto City) as our field of research, and conducted research on the following two points. Firstly, by comparing the style and function of medieval rural archives with that of early modern rural archives, we have clarified the continuity and disconnection between the two. Secondly, we have examined how the documents produced in medieval villages were selected and transmitted to the present day.

Finally, the research results of the first and second tasks are integrated and the conclusions are generalised.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本史 史料研究 中世・近世在地史料論 山国荘

1. 研究開始当初の背景

大堰川(桂川)の上流に位置する山国荘地域(近世の山国郷、現京都市右京区京北の山国・黒田地域)は、中世後期から近代にかけての史料が連続して大量に残されているという点で、他に類例を見ない場所である。研究代表者の坂田は、過去に4回科研費の交付を受け、山国荘地域をフィールドとする個別のテーマについて研究を進めてきた。その際、近世史、近代史の研究者の参加も得て在地文書の調査に当たったが、調査の過程で中世在地文書と近世在地文書がまったく異なる基準と方法によって各々分類されている事実が改めて気づき、両者の共通点及び差異を明確にしつつ、在地文書を統一的な基準に従って通時代的に分類する必要性を痛感した。

この点に関して補足すると、これまでの中世古文書学では上意下達文書の変遷が中心テーマである関係上、公家様文書・武家様文書のみが目が向けられ、在地で作成された多様な文書は、変化に乏しい上申文書・互通文書・帳簿類として、事実上、分析対象からはずされてきた。こうした中、春田直紀は中世地下文書研究会を組織し、中世在地文書に関する研究を精力的に進めているが、研究対象が中世文書に限定されており、近世文書までを見通した在地文書論の構築には至っていない。

また、同地では中世文書が個々の百姓の家に、家文書として今日まで代々伝えられているが、いかなる理由でどのような中世文書の選択的保存がなされたかを明らかにするためにも、富田正弘『中世公家政治文書論』(吉川弘文館、2012年)が主張する「文書群構成の時間的变化」を考察する必要性に思い至った。これは、安藤正人『記録史料学と現代』(吉川弘文館、1998年)に代表される、近世史で一般的な史料管理学的研究との対話を可能とする研究課題だといえる。

富田によれば、近世において選択的保存がなされた中世文書の多くは、家の由緒の証拠となる文書群とみなすことができるとのことである。富田はさらに、特定の文書群は、文書の授受・整理・廃棄が行われるたびに構成を変えること、中世文書のうち、近世に何らかの理由で保存措置をとられた文書だけが今日まで伝わったことを指摘するが、こうした状況は在地文書に関しても言うことができる。

山国荘地域において選択的に残された中世文書群の中には、近世に作成された中世年号を持つ「偽文書」も含め、近世百姓の家の由緒・来歴や権利・権益に関わるものがかなりの割合を占めており、その意味で「文書群構成の時間的变化」を分析する際には、これらの「偽文書」についても実際の作成年代を推定した上で、史料管理学的な見地から検討を加えることが重要であると考えた。

2. 研究の目的

そこで、本研究においては上述の山国荘地域をフィールドにとり、以下の2点を柱に据えて研究を進めた。

第一に、これまで古文書学的な研究が必ずしも十分とはいえなかった中世在地文書について、近世在地文書との比較・検討を行うことによって、様式や機能に関する両者の連続面と断絶面を踏まえた通時代的な在地文書論の構築を試みた。

第二に、中世在地文書がいかなる理由により、どのような紆余曲折の過程を経て今日的な文書群構成の中に位置づけられたかを考察した(「文書群構成の時間的变化」の検討)。

その上で、第一の柱と第二の柱に関する研究成果を統合し、「中世・近世在地文書の様式・機能の変遷と中世文書群の構造的変容に関する研究」という、本研究のメインテーマについて考察を深め、山国荘地域の事例から導き出される史料学的な結論の一般化・普遍化をはかることを目指した。

3. 研究の方法

本研究の研究方法の特色としては、現地調査による史料収集、これらの史料を用いた個別テーマについての研究、個別テーマの研究成果を総合した、本研究全体に関わる結論の提示という3段階を踏んで研究を進めた点に求められる。

すなわち、前半の2年(2017年度、2018年度)については に力点を置き、全体統括班のもと、荘官家、山国地区百姓家、黒田地区百姓家、寺社の4班編成をとって、古文書調査に当たった。具体的には夏と秋の2回現地に赴き、山国荘地域の各家文書と寺社文書の写真撮影を実施した上で、事務局を中心に文書目録の作成作業と関連史料のリストアップの作業(翻刻の作業も含む)を進めた。

後半の2年(2019年度、2020年度)については と に力点を置き、現地での補充調査を除くと、研究(分析と総合)中心の活動を行った。具体的には、上述の4班に分かれ、研究目的の第一の課題と第二の課題の各々に関し、班ごとに研究を進めた。具体的には、文書目録とリストアップした関連文書の画像データを各班のメンバーに送付し、各々の担当部分について各自で検討を進めたのち、その検討結果を踏まえて班ごとに成果を集成した。これらの研究成果は、各班の責任者を通じて研究統括班にあげられ、集約された。

その上で、2020年3月には対面で、5月と7月にはオンラインで研究会を開催し、第一・第二

の両課題についての研究成果を、本研究全体の研究テーマと関わる形でとりまとめた。そして、最終的にはその成果を13名の執筆者による論集として刊行した。

4. 研究成果

本研究の研究成果としては、何といても山国荘地域における古文書研究の成果をとりまとめた、坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』を刊行したことがあげられる。実のところ、本書に収録された13本の論稿のうち、圧倒的多数は第二の研究テーマ、すなわち、中世の在地文書がいかなる過程を経て現状の文書群構成の中に位置づけられたかというテーマに関連したものだといえる。つまり、本研究において、先行して研究が進展したのは第二の研究テーマであったため、それが本書の構成にも反映されることとなった。以下、まずは同論集に収録した各論稿についてとりあげ、続けてそれ以外の研究成果にも触れることとしたい(これらの論稿についてはすべて「5. 主な発表論文等」に掲載)。

(1) 『古文書の伝来と歴史の創造』に収録された研究成果

上述のごとく、本論集には主に、第二の研究テーマをめぐる研究成果を収録している。そのうち、近世に名主家と呼ばれた上層百姓家が自己の地位や権益を維持するために、集団で自らの由緒を物語る文書を作成し、それらの文書を近世はおろか今日に至るまで選択保存してきた事実について、各々の問題関心を踏まえて論じた論稿としては、後掲の「研究協力者吉岡拓「中近世「名主」考」、研究代表者坂田聡「黒田宮村西家の家譜・由緒と「常照寺一件」」、研究協力者西尾正仁「山国名主家伝承の諸相」、研究協力者柳澤誠「由緒文書の作成・書写・相伝」、研究協力者谷戸佑紀「山国郷の由緒書と明智光秀伝承」があげられる。これらの論稿によって、上層百姓家が山国地域内の平百姓家に対する優位性を主張するために作成された由緒をめぐる一連の文書が、さまざまな経緯によって、時代を超えて伝えられてきた事実が、個別具体的に明らかとなった。

これに対し、山野領有をめぐる近隣諸地域との相論の場において、上層百姓の家レベルではなく村レベルで偽文書を含む古文書が作成され、近世・近代を通じて選択保存されたことを論じた論稿として、研究協力者熱田順「山地領有の秩序と偽文書」、研究協力者西川広平「山地領有の由緒と文書」、研究協力者大貫茂紀「近世山国地域における境界認識と由緒」があげられる。これらの論稿によって、山国地域内の平百姓家との対立からではなく、地域外の諸村落との対立・抗争に際して作成された由緒をめぐる一連の文書も、同様に時代を超えて伝えられた事実が判明した。

続いて、文書管理学的に見た山国荘地域の残存文書の特色について論じた論稿としては、京都を取り巻く「供御人帯」と「京郊荘園帯」各々の残存文書の違いを検討し、後者に属する山国荘地域の特色を論じた研究協力者村上絢一「山国地域の文書と社会」(中世)、黒田宮村の上層百姓菅河家の文書管理を論じた研究協力者前嶋敏「黒田宮村菅河家文書の形成」(近世)、上黒田春日神社に保管されていた近世の村政関係文書群が、明治期に黒田村が成立したことを受けて、いかなる形で管理されるようになったかを論じた研究協力者宮間純一「十九世紀の地域社会における文書管理」(近世・近代)があげられる。

さらに、古文書の料紙研究の成果を用いて、中世年号を持つ山国の由緒関係文書の真偽判定を試みた論稿としては、研究分担者岡野友彦「料紙から見た山国の「偽文書」」があげられる。

最後に、第一の研究テーマである中世在地文書と近世在地文書の様式・機能の異同について、17世紀を通じて売券が書札体化した事実を解明し、その原因を論じた研究として、研究分担者園部寿樹「売券の変遷と地域社会」があげられる。

(2) それ以外の主な研究成果

論集に収録した論稿以外の研究成果としては、下記の諸論稿があげられるが、いずれも(1)の各論稿と問題関心が共通する論稿として位置づけることができる。以下、論文のタイトルのみ掲げることとしたい。

吉岡拓 2021 「十八世紀丹波国桑田郡山国郷における由緒書の編纂と「郷土」身分」

柳澤誠 2019 「丹波国山国郷における文書保存・管理・利用」

坂田聡 2019 「中近世移行期の在地社会と文書」

吉岡拓 2018 「近世畿内・近国社会と天皇・朝廷権威」

吉岡拓 2018 「戊辰内乱期の記憶/記録と身分意識」

熱田順 2018 「『丹波国山国荘史料』『丹波国黒田村史料』の史学史的意義」

園部寿樹 2017 「丹波国山国荘井戸村江口家の木印について」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉岡拓	4. 巻 1部1章
2. 論文標題 中近世「名主」考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 15-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田聡	4. 巻 1部2章
2. 論文標題 黒田宮村西家の家譜・由緒と「常照寺一件」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 41-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾正仁	4. 巻 1部3章
2. 論文標題 山国名主家伝承の諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 69-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤誠	4. 巻 1部4章
2. 論文標題 由緒文書の作成・書写・相伝	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 95-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷戸佑紀	4. 巻 1部5章
2. 論文標題 山国郷の由緒書と明智光秀伝承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 129-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野友彦	4. 巻 2部6章
2. 論文標題 料紙から見た山国の「偽文書」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 153-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熱田順	4. 巻 2部7章
2. 論文標題 山地領有の秩序と偽文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 181-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川広平	4. 巻 2部8章
2. 論文標題 山地領有の由緒と文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 207-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫茂紀	4. 巻 2部9章
2. 論文標題 近世山国地域における境界認識と由緒	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 233-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部寿樹	4. 巻 3部10章
2. 論文標題 売券の変遷と地域社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 267-299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上絢一	4. 巻 3部11章
2. 論文標題 山国地域の文書と社会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 301-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前嶋敏	4. 巻 3部12章
2. 論文標題 黒田宮村菅河家文書の形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 329-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮間純一	4. 巻 3部13章
2. 論文標題 十九世紀の地域社会における文書管理	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 坂田聡編『古文書の伝来と歴史の創造』	6. 最初と最後の頁 355-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫茂紀・柳澤誠	4. 巻 44号
2. 論文標題 史料紹介 中央大学図書館所蔵山国郷名主家由緒書「三十六名八十八家私領田畑配分並びに官位次第」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央史学	6. 最初と最後の頁 93-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡拓	4. 巻 3部15章
2. 論文標題 「山国隊」隊名をめぐるあれこれ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地方史研究協議会編『日本歴史を解きほぐす』	6. 最初と最後の頁 199-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田 聡	4. 巻 277号
2. 論文標題 書評 園部寿樹著『日本中世村落文書の研究』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 224-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤誠・大貫茂紀・熱田順	4. 巻 43号
2. 論文標題 史料紹介 中央大学図書館所蔵丹波国桑田郡灰屋村文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央史学	6. 最初と最後の頁 218-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳澤誠	4. 巻 6章
2. 論文標題 丹波国山国郷における文書保存・管理・利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐藤孝之他編『近世・近現代文書の保存・管理の歴史』	6. 最初と最後の頁 104-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂田 聡	4. 巻 64号
2. 論文標題 中近世移行期の在地社会と文書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 紀要(中央大学文学部)・史学	6. 最初と最後の頁 33-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡拓	4. 巻 976号
2. 論文標題 近世畿内・近国社会と天皇・朝廷権威	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡拓	4. 巻 679号
2. 論文標題 戊辰内乱期の記憶 / 記録と身分意識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 157-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熱田順	4. 巻 670号
2. 論文標題 『丹波国山国荘史料』 『丹波国黒田村史料』の史学史的意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡野友彦・柳澤誠・石川達也	4. 巻 29号
2. 論文標題 東京大学史料編纂所蔵「横田文書」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所紀要	6. 最初と最後の頁 170-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部寿樹	4. 巻 46号
2. 論文標題 『日本中世村落文書の研究』その後	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 (米沢女子短期大学)生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 園部寿樹	4. 巻 45号
2. 論文標題 丹波国山国荘井戸村江口家の木印について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山形県立米沢女子短期大学生活文化研究所報告	6. 最初と最後の頁 37頁 - 40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大貫茂紀・柳澤誠	4. 巻 41号
2. 論文標題 史料紹介 丹波国山国荘烏居家文書の中世文書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央史学	6. 最初と最後の頁 121頁 - 129頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡拓	4. 巻 15巻
2. 論文標題 十八世紀丹波国桑田郡山国郷における由緒書の編纂と「郷土」身分	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治学院大学教養教育センター紀要：カルチュラル	6. 最初と最後の頁 27頁 - 40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 熱田 順
2. 発表標題 「偽文書」についての一考察
3. 学会等名 中央史学会第44回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉岡拓
2. 発表標題 近世畿内・近国社会と天皇・朝廷権威
3. 学会等名 歴史学研究会大会・近世史部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉岡拓
2. 発表標題 戊辰内乱期の記憶 / 記録と身分意識
3. 学会等名 日本史研究会大会・近現代史部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂田 聡
2. 発表標題 室町・戦国時代における百姓のリテラシーについて
3. 学会等名 第41回北海道高等学校日本史教育研究大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 坂田聡編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 378頁
3. 書名 古文書の伝来と歴史の創造 由緒論から読み解く山国文書の世界	

1. 著者名 佐藤孝之他編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 338
3. 書名 近世・近現代文書の保存・管理の歴史	

1. 著者名 園部寿樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 332頁
3. 書名 日本中世村落文書の研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

山国荘調査団 yamaguni.blogspot.com/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	園部 寿樹 (SONOBE Toshiki) (10202144)	山形県立米沢女子短期大学・その他部局等・教授 (41501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榎原 雅治 (EBARA Masaharu) (40160379)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	岡野 友彦 (OKANO Tomohiko) (40278411)	皇學館大学・文学部・教授 (34101)	
研究分担者	小林 丈広 (KOBAYASHI Takehiro) (60467397)	同志社大学・文学部・教授 (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関